



多摩市身のまわりの環境地図作品展 20周年記念誌の発行にあたって

多摩市長 阿部 裕行

このたび、多摩市身のまわりの環境地図作品展が、ここに20周年という節目の年を迎えることになり、これまでの歩みを中心に記念誌を発行いたしました。

これまで本作品展の発展にご尽力いただいた関係者の方々に心から感謝申し上げます。

本作品展は、平成8年度に環境基本条例の制定に向けて、環境問題への取り組みに係る懇談会を設けて、この中で市民の方々に環境について考えていただく方法の一つとして提案がありました。この提案を受けて、平成9年度から多摩市身のまわりの環境地図作品展がスタートしました。

この作品展は、児童・生徒の皆さんが日常、触れたり感じている身のまわりの生活環境を取り上げ、自分で観察し、地図として表現して、見える化することにより、環境の捉え方を身を持って学び、環境に対する理解を深めてもらうことを目的としており、毎年多くの出品をいただいております。

近年、全世界的に環境問題が深刻化しており、大気や水質の汚染など自然環境の破壊、廃棄物の増加、地球温暖化など多種多様に及んでいます。

このみどりあふれる多摩市の環境は市民共有の財産であり、これを後世に引き継いでいくことが重要な責務であり、次世代を担う子ども達が身のまわりの環境について学ぶことは大変意義のあるものでございます。

このように環境をテーマにした作品展は、都内では例はなく、全国的に見ても少なく、本市独自の環境への取り組みであり、西川先生、谷内先生をはじめとした関係各位のご尽力により、ここで20回を迎えるに至ったものでございます。重ねて御礼申し上げます。

今後も第五次多摩市総合計画にかかげる将来都市像「みんなが笑顔 いのちにぎわうまち 多摩」の実現、そして多摩しみどりと環境基本計画にかかげるめざす環境像「循環と調和のまち みんなで創る多摩一和（WA）と環（WA）と輪（WA）のまちづくり」の実現に向け、持続可能な社会を市民の皆様と共に作り上げてまいります。

この20回目を契機として、この作品展を通じて児童・生徒のみならず市民の皆様が多摩市の環境に対する理解を一層深め、行動につなげていただきますことを祈念いたしまして、あいさつとさせていただきます。

